



# 競艇のあゆみ

(1991～2000年)

## 第1章

トピックス編

# 競艇トピックス編

## 主な出来事等

- 本格的場外発売場「ボートピア姫路」がオープン(平成3年1月)
- さだまさし氏作曲のファンファーレを採用(平成3年6月)
- SG競走にグランドチャンピオン決定戦競走(平成2年10月)、オーシャンカップ競走(平成8年4月)、競艇王チャレンジカップ競走(平成10年1月)を新設
- (株)日本レジャーチャンネルを設立(平成4年4月)
- モーターボートクイーンコンテストを開催(平成6年3月)
- 連合会会長に笹川陽平氏が就任(平成6年4月)
- 北海道にボートピアが進出(平成6年4月)
- 阪神大震災で競艇場にも被害(平成7年1月)
- 連勝単式発売制限の緩和(平成7年5月)
- 笹川良一連合会名誉会長が逝去(平成7年7月)
- 競艇オフィシャルホームページが本稼動(平成8年7月)
- 競艇用語を統一(平成9年2月)
- 桐生がナイターレースを初開催(平成9年9月)
- 広報センターを設立(平成10年4月)
- 蒲郡がナイターレース開催(平成11年7月)
- 連勝複式、単式の同時発売が可能に(平成10年12月)
- 3連勝式投票法が誕生(平成12年2月)
- 連合会会長に蔭山幸夫氏が就任(平成12年6月)
- 住之江で3連勝式投票法を発売開始(平成12月10月)

平成3年は念願だった場外発売場「ボートピア姫路」が誕生し、6月にはモーターボート競走法制定40周年を迎え、それを記念した新しいSG競走「グランドチャンピオン決定戦競走」が誕生するなど、新たな発展を期して40年目がスタートした。

平成4年に入ると、広域発売の拡大に伴い(株)日本レジャーチャンネルが設立され、広域発売の売上も順調に向上した。

平成6年には、競艇の生みの親、育ての親である笹川良一氏が連合会会長を辞任、後任として連合会副会長で東京都競走会の会長であった笹川陽平氏が会長に就任した。しかし、翌年には笹川良一名誉会長が逝去され、業界関係者は深い悲しみに包まれた。このような中、平成7年の年が明けて間もなく阪神大震災が発生し、近畿地区の競艇場は少なからずこの影響を受けた。また、日本の交通機関を東西で分断することになり、全国の競艇場への選手の出場にも影響を受けた。

この年代には一般家庭へのパソコンの普及も進み、インターネットを利用した各種情報の提供が進み、競艇も平成8年にオフィシャルホームページを立ち上げ、新規ファンの獲得、既存ファンへのサービスの向上などを図った。

念願だったナイターレースが平成9年9月に桐生、そして平成11年には蒲郡で実現、大好評を博した。また、ナイターレースの場間場外発売も行われるようになり、来場するファンの層の若返りで今後の展開に大きな期待がかけられた。

そして、平成12年には公営競技史上初の3連勝式投票の導入が決定した。業界では、かねてから新投票法の導入について企画していたが、監督官庁の運輸省(現・国土交通省)と検討を重ねた結果、平成12年2月9日付でモーターボート競走法施行規則が改正され、新しく3連勝単式、3連勝複式の投票法、さらに拡大2連勝複式の投票法が導入できるようになったのである。また、平成12年には笹川陽平氏が連合会会長を辞任、後任として連合会副会長で大阪府競走会会長の蔭山幸夫氏が会長に就任した。